

関連項目：指導体制プラン②

教師集団・専門家・地域が連携し、児童の危機意識を高め緊急対応策を学ばせる

目的

本校の児童は、温厚で穏やかな性格の子が多く、問題行動がほとんど見られない反面、不審者対応などについての危機意識が十分に育っていないという課題点がある。そこで、対策を教師集団で話し合い、専門家を招いて4つの問題場面を想定した集会（寸劇を演技）を行い、子どもたちに身を守るための対応策や正しい行動について考えさせることにした。

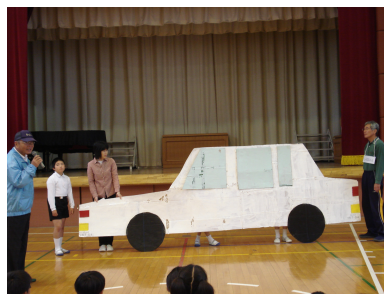
内容

● 教師による4つの場面の擬似体験劇と児童代表グループの遭遇場面から、対応策を考える。

見知らぬ人から声をかけられる4つの場面（A「住所（道）をたずねてくる」、B「お菓子をあげるよと近づいてくる」、C「写真撮影を要求してくる」、D「（家族が急病だから）車で病院まで乗せてあげよう」と近づいてくる）の不審者対策・緊急避難訓練を6月に行った。

まず、本校の4名の教員が変装し、代表の子どもたち（登校班）相手にそれぞれ不審者の役を演じ、実際に不審者と出会った場面をつくった。児童は、「どのようにしてこの不審者（危機）から逃げるのか」について、真剣に意見交換したり、話し合った。

次に、スクールガードリーダー（地域学校安全指導員・砂留利光さん 香川県教育委員会事務局保健体育課より派遣）の指導を受けた。対応の注意事項として、①「大きい声を出す」 ②「近づいてくるようなら、逃げる（一定の距離＝約5m）まで離れる」 ③「はっきりと断る」 ④「子ども SOS の家へ逃げ込む」 ⑤「特徴（車のナンバー等）を覚えておく」の全体指導があった。



その後、「子ども SOS の家」の再確認を登校班ごとに行った。それぞれの活動において、集団登校班の上級生の不審者への対応は、下級生へのよき手本となったようである。

この集会の前週、給食の時間帯を活用して全校生に生徒指導担当の教員が紹介した「イカのおすし」（不審者対策のマニュアルをわかりやすく説明した歌）の学習効果もうかがえた。

しかし、油断は絶対に禁物である。集会の最後には、養護担当の教員が児童に対して、交通安全と同様つねにお互いに注意し合うことを確認した。

さらに、この集会の内容を学校便りに記載し、保護者だけでなく地域全戸に配布し、協力を呼びかけている。

（備考 上記以外の主な全校集会内容）7月「川やため池・海での遊びについて」 10月「遠足のおやつの買い方」 12月「万引き防止」 2月「お金の不思議+人気カード遊びについて；（親子集会）」

成果

こうした取り組みをすることで、児童の判断力が育ち、危機意識が高まったことが児童の作文よりうかがえた。効果を上げるためのポイントとして、教師がチームとなって校内研修の場で集会の内容を協議し、児童に伝わりやすい演技を練習・検討したり警察関係者等からの専門的な内容を含んだ講話を取り入れたりしたことが上げられる。

また、季節（時期）に応じた集会の場をもつと同時に、学校便り等で保護者・地域啓発も行い、協力を呼びかけていることも効果に結び付いていると考えている。